

私のすすめるこの1冊

谷口 匡 (国文学科 教授)

『一億三千万人のための『論語』教室』

高橋 源一郎 (著)

私はこれまで『論語』を二度通読したことがある。一度めは大学一年の夏、吉川幸次郎よしかわこうじろうの解説による文庫版の『論語』三冊本で読んだ。ふつうは全二十篇中の第五、公冶長こうやちやう篇あたりで挫折するというこの古典を、曲がりなりにも読み通せたのは当時としては大きな経験であった。そして二度めが実は本書である。『論語』という古典を一度最後まで読んでみたい人には、その最初の一步として本書を薦めたい。

著者はマスメディアでも幅広く活躍する売れっ子作家だから、本書は書名だけを見れば、『論語』についての気ままなエッセイのように感じられるかもしれない。だが実際はその予想を裏切り、著者が二十年にわたって『論語』と向き合い、その全文を地道に現代語に翻訳したものである。しかし、ちまたの全訳本と異なるのは、孔子を「センセイ」と称するのに始まって、逐語訳というよりはそのまま今に通じる場面に置き換え、著者独特の語り口調で現代語訳していることである。一、二紹介しよう。

「君たちは、まず学問を通じて、友人を作りなさい。その上で、その知り合った友人たちと切磋琢磨せつさくたくますることで、人間性を磨きなさい」(本書 321 頁)は、「君子は文を以て友を会し、友を以て仁たすを輔く」(顔淵篇)に対する「翻訳」だが、類書で本章をここまでスッキリとした日本語にしたものを知らない。「仲良くすることは大切だが、だからといってよくわかってないのに『いいね!』ボタンを連打するのは考えもの」(348 頁)は、人口に膾炙する「君子は和し

て同ぜず」(子路篇)の現代流解釈だ。著者はいう、「ある意味で、これ以上、厳密な翻訳はないんじゃないかと思っています。なにしろ、あんなに時間がたってもセンセイの『論語』はまったく古びていなかったんですから」(10 頁)。

本書は『論語』の読み下し文と現代語訳のみの構成で、「さすが、センセイ! いいこというじゃん」(124 頁)のごときコメントがつけ加わることもあるが、原文やくだくだしい語釈などは一切省かれている。通読をめざす人はまずは現代語訳だけを読み進め、特に気になった所のみ読み下し文に戻って、元来の『論語』に親しんでもよいと思う。

著者は中国古典を専門に修めた人ではないため、時にあれ? という通常にない解釈にでくわす。だがそうした異なる理解が生じるのこそ古典の醍醐味だ。その時は別の『論語』解説本も紐解き、さらに自分ならどう読むかを考えてみてはいかがだろうか。

その際の参考図書のお薦め第一位はやはり上記の吉川『論語』だが、諸橋轍次もろはしてつじ『論語の講義』も定評があり、特に国語の教職に進む人が一冊持つとすればこれである。また『論語』や孔子について、もう少し大局的に俯瞰したり、時代背景から迫ってみたい人には、吉川の『中国の知恵』や白川静しらかわしずか『孔子伝』も繰り返し味わうべき名著だ。

高橋『論語』によって「論語教室」に足を踏み入れた人は、こうした書物でぜひさらに一步、この人類の古典に近づいていただければ幸いである。

今回の執筆者 Andrew, Obermeier(英文学科 准教授)

Different Views of Reflective Practice: Teacher Training in Japan and England

Andrew OBERMEIER, Mary BRIGGS, Noriko SAKADE, and Kaoru NISHII
Bulletin of Kyoto University of Education. 2018, No.133, pp.149-164.

This article was written by two researchers from Kyoto University of Education and two from Oxford Brookes University. In addition, more than 10 other researchers in both Japan and England supported the project, as did classroom teachers, mentors, and administrators in elementary and junior high schools in both countries. The researchers in both settings were interested in finding out how their counterparts conducted pre-service teacher education, and set out to understand how each other's institutions systematically prepared over 300 new teachers every year for entry into the profession. Mainly, they observed and analyzed practicum lessons, trainee reflection sessions, and mentor advising.

Key findings from the project were the insights gained that could be applied to teacher training in both contexts. For the Kyoto researchers, understanding the importance of clear standards, assessment, and feedback was the most important finding. The Oxford mentors worked with the teacher trainees and gave them feedback according to an extensive set of standards that were established by the central government and enforced by the university. Both the mentors and teacher trainees referred to these standards repeatedly to guide their discussions and also to foster further development. On the other hand, for the Oxford researchers, the most valuable finding was the strength and support of the school as a foundation for developing a community focussed on training pre-service teachers. At the school, administrators, teachers, teacher trainees all worked together, collaborating as a strong group, which was very different from England where teacher training is much more individualized.

In sum, investigating teacher training, mentoring, and trainees' experiences at both institutions revealed important insights into the learning process in professional development. Researchers on both sides came away realizing that their training systems could benefit by adding elements from their counterpart's methodologies and policies.

異なる視点からの「省察」－日本とイングランドにおける教員養成－

Andrew OBERMEIER, Mary BRIGGS, 坂出義子, 西井薫
京都教育大学紀要. 2018, No.133, pp.149-164.

この論文は、京都教育大学の2人の研究者とオックスフォード・ブルックス大学の2人の研究者によって書かれました。さらに、日英両国の10人以上の研究者がプロジェクトを支援し、同様に両国小中学校の学級担任、メンター、管理職も協力しました。双方の研究者は、相手方が教職に就く前の教員養成をどのように実施したかに関心を持ち、毎年300人以上が教職に就くのをいかに組織的に準備するのかを理解しようとしていました。主に、教育実習、実習生の振り返り、メンターによる助言などを観察・分析しました。

プロジェクトからの知見は、両大学の教員養成に適用できるものでした。京都教育大の研究者にとって、明確な基準と評価、フィードバックの重要性を理解することが最も重要な発見でした。オックスフォードのメンターは、教員研修生と協力し、中央政府によって確立され、大学によって施行された基準に対応してフィードバックを行いました。メンターと教員研修生の両方は、議論を深めるためにこれらの基準を繰り返し参照し、さらなる発展を促しました。他方、オックスフォードの研究者にとって、日本での最も価値ある発見は、教職に就く前の教員養成に焦点を当て、共同体を発展させる基盤としての学校による力強い支援でした。学校では、管理職、教員、教育実習生の全てが一つの集団として協力しました。これは、イギリスの教員研修がかなり個別化されている状況とは大きく異なりました。

まとめると、両機関での教員養成、メンタリング、および実習生・研修生の経験を調査することにより、専門能力開発における学習プロセスについて洞察をしました。両国の研究者は、自分たちの養成システムが、相手方の方法論と方策から要素を取り入れることで利益を得られることに気付きました。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 133号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

★ 保育士試験対策コーナー



令和元年度「言語表現に関する技術」の実技試験で課題となっている4つの昔話について、いろいろな語り口や挿絵の絵本・紙芝居を集めました！ ☆貸出できます☆

11月21日(木)～12月6日(金)

第33回 うたとおはなしの会

【日時】12月14日(土) 10:30～11:30

【場所】附属図書館北館2階
研修・セミナー室1

【定員】130名(事前申込要、先着順)

季節にぴったりの心温まるうたやおはなしをたくさんご用意しました。大人気の人形劇は「ヘンゼルとグレーテル」の予定です。



幼児教育科 平井研究室と共催です！

★ リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

【リクエストは随時受け付けています。(カウンター横の机)】

- 学習研究目的のものは原則として購入します。
- 学習研究以外の目的のものは、毎月25日までに受け付けた分を1日～15日に館内で投票し、票の多かった本を購入します。(結果によっては購入できないこともあります。)

※読みたい本がありましたらぜひリクエストください。

12月の投票期間は

12月2日(月)～12月16日(月)

★ 冬季休業に伴う長期貸出について

学部生：12月10日(火)～12月24日(火)

院生・教職員：11月26日(火)～12月10日(火)

【返却期限日】2020年1月8日(水)まで

児童書コーナー (南館1階)



学生作の
チラシ



学生による絵本のよみかき

★12月2日(月) 14:30～

『ねずみくんとゆきだるま』他

★12月16日(月) 14:30～

『サンタさんとこいぬ』他



今月の絵本カード (学生作)



『フレデリック』

作：レオ・レオニ

訳：谷川 俊太郎

出版社：好学社

※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

★ 学修相談カウンター

理数系の院生がいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？



<今月の逸品>

太政官札

展示場所：図書館

(12・1月展示)



教育資料館 まなびの森ミュージアム

<お知らせ>

◆【12月の開館日】2日(月)、9日(月)、16日(月)
【開館時間】13:30～17:00

◆第8回京都・大学ミュージアム連携スタンプラリー
【開催期間】2019年12月7日(土)まで、好評開催中！
(本学は参加大学です。)

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第19回のお知らせ

【日時】12月17日(火) 12:10~12:30

【場所】附属図書館1階 リフレッシュラウンジ

【講師】中俣 尚己(国文学科)

【テーマ】数字で切る! 日本語

<概要>

私たちが普段使っている日本語について、考えたことはあるでしょうか。言葉の意味を深く考えるということもできますが、たくさんの日本語のデータを集めてコンピュータで分析すれば、直観ではわからないような意外な事実が見えてきます。また、言葉は思考を伝達する手段ですが、大量のデータからは、日本語話者の思考の特徴までも見えてきます。無意識に行われている私たちの「言葉の選択」に、数字でメスを入れてみようと思います。

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援: 京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

おにぎり2個
&お茶付き!
先着30名

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。



★ イベント案内

<報告>

同窓会写真展

11月8日(金)から11月11日(月)まで
企画展示室にて開催。

SDGs コラボ展示

11月9日(土)に図書館西側ロビーにて開催。

<開催中>

第1回 教育展 大学の授業-教育学編-

「教育展 大学の授業」は、一般的にはあまり知られていない「大学の授業」に焦点を当て、附属図書館が所蔵する図書資料や教育資料館の所蔵品、各研究室の教材等を紹介する展示です。第1回は教育学分野に焦点を当て、京都府師範学校より続く本学の教育学教育と、それを支えた研究活動の歩みをご紹介します。

【会期】11月7日(木)~12月27日(金)

【場所】企画展示室

<開催中>

学生たちによる黒板アート展

【会期】~12月27日(金)

【場所】企画展示室

「教職実践演習」の授業の一環で、学生たちが描いた黒板アートを展示しています。多様な大学の授業のひとつとして、「教育展 大学の授業」と併せてお楽しみください。



ぜひ、
ごらん
ください!



主催: 附属図書館

共催: 教育資料館

企画・協力: 教育学科教育学教室

協力(資料提供): 附属京都小中学校

後援: 京都府教育委員会、京都市教育委員会



開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2019年12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

12/7推薦入試

12/24-1/5 冬季休業

2020年1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1/6 授業再開

1/18-1/19 センター試験

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード→)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.231 (2019年12月号)

発行日: 2019年12月2日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION